

第4回「みちのく復興事業シンポジウム」を開催

「東北から地域の未来を描く ～これからの企業の役割を考える～」

主催：みちのく復興事業パートナーズ、NPO法人ETIC.

「みちのく復興事業パートナーズ※¹（以下、事業パートナーズ）」と「NPO法人ETIC.※²（以下、ETIC.）」は、これまでの東北復興の実践から、地域社会の未来とこれからの企業の役割を考察するシンポジウムを、東日本大震災から5年となる3月8日に開催いたします。

東北の被災地では、高台移転や復興住宅の建設が進み、暮らしの土台が整えられていくフェーズに入ってきました。一方で、震災前から抱えてきた人口減少・高齢化・経済縮小等の社会課題が顕在化しており、インフラの復旧に留まらない、新たな経済や人々の豊かな暮らしのつくり方が求められています。この持続可能な地域社会のあり方への模索は、東北のみならず、日本全体の課題であることは言うまでもありません。

これまでの5年間、多くの個人やNPO・団体、企業が東北に入り、地域のプレイヤーや行政と交ざって活動したことにより、幾つもの「新しい地域社会」のあり方を試行錯誤する事業やプロジェクトが生まれています。その過程では、これからの地域社会を考える上で、多くの学びや発見がありました。

はたして、ここで得た学びや発見が、他地域、ひいては日本全体の未来を創っていくことにつながるのでしょうか？ そしてその中で、企業は何ができるのでしょうか？ どんな役割を担うことが大切なのでしょうか？

今回のシンポジウムでは、東北で生まれた先行事例からの学びや発見を基に、これからの地域社会のあり方と可能性、企業の関わり方について議論します。

みなさまのご参加をお待ちしております。

日時	2016年3月8日(火) 15:00-17:45（開場は14:30から）
会場	電通ホール(東京都港区東新橋1-8-1、電通本社ビル内)
定員	300名(参加無料)
対象	企業のCSR・社会貢献担当者、人事担当者、復興、地方創生に関心のある方
参加申込	下記Webフォームよりお申込みください http://www.etic.or.jp/sympo160308/
主催	みちのく復興事業パートナーズ、NPO法人ETIC.

※1 企業が連携して東北で復興に取り組むリーダーらを支援する枠組み。いすゞ自動車、花王、ジェーシービー、損害保険ジャパン日本興亜、電通、東芝、ベネッセホールディングスが参画。(2016年3月現在)



※2 若い世代のリーダーを育成する団体として1993年に設立。長期実践型のインターンを通じて多くの学生を育てるとともに、次代を担う代表的な事業型NPO法人を数多く輩出しています。

問い合わせ：NPO法人ETIC.(エティック) 担当：石塚・海津・山内(亮太)
TEL：03-5784-2115 FAX：03-5784-2116 E-mail：info@michinokupartners.jp

【プログラム】

15:00～15:05 開会

15:05～15:10 みちのく復興事業パートナーズのご紹介
NPO法人ETICより

15:10～15:35 基調講演「東北から生まれる地域の未来とは？」
ゲスト：藻谷 浩介 氏
株式会社日本総合研究所 主席研究員

15:35～16:00 基調講演「東北から生まれる地域の未来とは？」
～西粟倉の事例より東北を考える～
ゲスト：牧 大介 氏
株式会社森の学校ホールディングス 代表取締役

16:00～16:50 東北で活躍する担い手によるプレゼンテーション
「東北から生まれている新たな可能性とは？」

ゲスト：
小松 洋介 氏 NPO法人アスヘノキボウ 代表理事
橋本 大吾 氏 一般社団法人りぶらす 代表理事
長谷川 琢也 氏 一般社団法人フィッシャーマンジャパン

モデレーター：山内 幸治 氏 NPO法人ETIC.事業統括ディレクター

17:00～17:45 ディスカッション「これからの企業の役割を考える」

ゲスト：入川 秀人 氏
入川スタイル&ホールディングス株式会社 代表取締役
牧 大介 氏
株式会社西粟倉森の学校ホールディングス 代表取締役
小松 洋介 氏
NPO法人アスヘノキボウ 代表理事
モデレーター：宮城 治男 氏
NPO法人ETIC. 代表理事

以上

【基調講演 登壇者ご紹介】



藻谷 浩介 氏 - 株式会社日本総合研究所 主席研究員

平成合併前3,200市町村のすべて、海外74ヶ国をほぼ私費で訪問し、地域特性を多面的に把握。2000年頃より、地域振興や人口成熟問題に関し精力的に研究・著作・講演を行う。2012年より現職。近著に「デフレの正体」、第七回新書大賞を受賞した「里山資本主義」(共に角川Oneテーマ21)、「金融緩和の罨」(集英社新書)、「しなやかな日本列島のつくりかた」(新潮社、7名の方との対談集)。



牧 大介 氏 - 株式会社森の学校ホールディングス

京都府宇治市出身。京都大学大学院農学研究科卒業後、民間のシンクタンクを経て2005年に株式会社アマタ持続可能経済研究所の設立に参画。森林・林業、山村に関わる新規事業の企画・プロデュースなどを各地で手掛けてきた。2006年から地域再生マネージャーとして西粟倉村に赴任。2009年より株式会社西粟倉・森の学校を設立と同時に代表取締役就任。2015年より株式会社森の学校ホールディングス設立とともに同代表取締役就任。

【プレゼンテーション・ディスカッション登壇者】



橋本 大吾 氏 - 一般社団法人りぷらす

理学療法士。茨城県鹿嶋市出身。東日本大震災後、リハビリ専門職の支援団体を設立し、石巻市の支援活動開始。2011年石巻市へ移住。2013年1月「一般社団法人りぷらす」設立。「子供から高齢者まで病気や障がいの有無にかかわらず地域で健康的に生活し続ける事が出来る社会を創造する」を理念に活動。2014年1月リバイブジャパンカップ復興ビジネスベンチャー部門審査員応援賞受賞世代を問わず年間約3,500名と交流。



長谷川 琢也 氏 - Fisherman Japan事務局／ヤフー株式会社復興支援室

ヤフー株式会社復興支援室に勤務。東日本大震災後に石巻に移り住み、石巻を拠点に被災地や東京をうろろしながら東北の人たちとビジネスを立ち上げる。被災地の農作物や海産物、東北の歴史が息づく伝統工芸品などをネットで販売する「復興デパートメント」や、東北の水産品にブランド価値を与え、新たな水産業を創造する「フィッシャーマン・ジャパン」の立ち上げ等に従事。現在、これからの漁業の担い手となる漁師を増やしていくTRITON PROJECTに奮闘中。



入川 秀人 氏 - 入川スタイル&ホールディングス 株式会社

1999年「LDK」を玉田敦士氏と共に創業。2001年「コミュニティ&ストアーズ(現カフェカンパニー株式会社)」を楠本修二郎氏(現代表取締役)と共に創業。2005年に入川スタイル研究所を創業、2007年には現在の入川スタイル&ホールディングスを創業。現在、株式会社ダブリューズカンパニーの代表取締役会長も務める。現在は、これまでの実績や蓄積したノウハウ、独自のマーケティング手法等を基に、関連企業の企画および開発業務のほか、街づくりや地域ブランディングに関する社会実験や、教育・出版事業等をメインに精力的に活動を行っている。



小松 洋介 氏 - NPO法人 アスヘノキボウ

宮城県 仙台市出身。2005年4月に新卒でリクルートに入社。震災を機にボランティアに関わり、地元宮城に戻ることを決意。2011年9月にリクルートを退職後、被災地の自治体、商工会、商工会議所、観光協会などをヒアリングを続け、東北に必要な長期的な支援は「産業の復興」と導きだし、その進捗に奮闘している女川町と出会い女川町復興連絡協議会戦略室へ入室。2013年4月、女川を中心にまちづくり、産業活性に取り組むNPO法人アスヘノキボウを立ち上げた。

【モデレーター】



NPO法人 ETIC. 代表理事 宮城 治男 氏

1972年生まれ、徳島県出身。93年から若い世代の起業家型リーダーの育成に取り組み、400名以上の起業家を輩出。96年から長期実践型インターンシッププログラムを事業化。2001年、ETIC .ソーシャルベンチャーセンターを設立、社会起業家育成のための社会起業塾イニシアティブ等を手がける。04には地域における人材育成支援のチャレンジ・コミュニティ・プロジェクトを開始。11年から震災復興支援にも注力。



NPO法人 ETIC. 理事・事業統括ディレクター 山内 幸治 氏

1976年生まれ、神奈川県出身。早稲田大学在学中にETIC.の事業化に参画。1997年に起業家型人材の育成とベンチャー企業支援を目的とした長期実践型インターンシッププログラムを開始。2000年ETIC.のNPO法人化に伴い、事業統括ディレクターに就任し、全国各地のコミュニティ・ビジネスを支援。11年、「震災復興リーダー支援プロジェクト」を開始。東北への右腕派遣事業などを推進している。